

# 「恕」「勢」「楽」で教場前進

会長 鈴木 龍成

毎日の習慣として、朝の新聞は欠かせません。ただし、明るい話題の一読こそがその日の活力につながるのです。官々、官民の談合は今や日常茶飯事。「偽」の一字で糾弾された一連の偽装、偽造問題は我々の日常の生活感覚からはほど遠いものです。折にふれて、家元が強調される「真善美」の精神に則る「礼」と「節」の大切さをしみじみと考える作今です。

院吟日本流精岳

## あちよあ

第 3 2 号

平成 2 0 年 9 月

千代田岳精会弘報

平成二十年度岳精流指標

ありがとう

全国吟道大会を成功裡に終え、当番役員（昼食担当）および特別派遣の舞台担当関係の皆様には、そのご努力に對し本部から多大の評価が頂けたことはもとよりですが、当会としても大いに誇りとするところであります。本当にご苦勞様でした。日常の教場活動をすすめるながら併行して、会としての諸行事への取組みを行なうていただいておりますが、「温習会」がその準備の佳境に入っております。今更ながら驚かされます。担当教場（丸の内第一、東陽町、丸の内女子、鎌ヶ谷）を中心として、十一月廿二日の「温習会」成功のため、会員皆様の協力とご精進をお願いいたします。とところで、機会をいただきました。それらの教場訪問時に感ずることは、それぞれが発散する教場運営への情熱溢れる姿です。ひとつの事柄（吟技のこと）であれ、教場運営のことであれ、つき飛び交う意見には時に食い違いがあつたりしても、その都度お互いの理解が形成され、前進的な結論を得ているのです。まさに「恕」（相手の気持ち、立場を推測し思いやること）の心が通い合っているのではありませんか。そこには、何のわだかまりや拘わりも生まれません。教場という共同集団を「勢」いをもつて進めていくためには不可欠なことがあると思ひます。

家元の「岳精語録」のなかに「行くのが楽しみだ逢うのが楽しみだ、吟ずるのが楽しみだ、そんな教場でありたい」という至言があります。現宗家の言葉を強調して説かれていたのを思い出します。まさに我々の教場は、「楽しみ」を増幅する集団でありたいと願っています。先日、ある教場分室へお邪魔した時、メンバーから期せずして「もう少し仲間を増やしたい」との意見が出て、その後早速「会員募集」チラシ作りに取り組みました。お話をうかがいました。「楽しい教場」づくりの一つのカギは、やはり「隣り」の吟友を増やすことに尽きるのではないのでしょうか。会として、「のびのび」わくわくさわやか千代田」の今年のスローガンのもと、新五拠点新設を中心に会員増強に取り組みしております。皆様の協力をお願いいたします。暦の上では、中秋の爽やかな時季ですが、異常なほどの残暑が続きます。会員の皆様、健康維持に十分ご配慮下さい。



星野久山（清水）

岳精流日本吟院

# 全国吟道大会澆漑と力強く



岳精流で最大の行事である全国吟道大会は、梅雨模様の中六月廿二日川崎市教育文化会館で開催され、全国より約一、五〇〇の吟友が参加した。千代田は地元として最多数の一三五名の参加で大会を支えたほか、昼食担当に菅原克風事業部門リーダーのもと丸の内第二、清水、新宿の担当三教場が汗を流した。これらの方々は全員合吟の舞台に上がることもなく黙々と取り組まれ、トラブルも全く起こらず終了された。本当にご苦労さまでした。

舞台では、構成吟「頼山陽の風景」に岩崎龍慶顧問が「本能寺」の吟者、千峰流剣舞宗家でもある金子澄山さんが「不識庵」を、東陽町の小谷野弘子さんが「前兵児の謡」に剣舞で登場して見事な演技を披露された。今年の大特色は、新しく就任の五人の副幹事長の力強い吟詠、「吟友の輪拡大二年計画」の成果である新会員の参加が増加したこと、千代田でも四一名の無伝の方が参加している。



全国吟道大会構成吟に出演  
東陽町 小谷野 弘子

この度は、岳精流全国吟道大会の舞台に神翠流剣舞で出場出来ました事は身に余る光栄でございます。構成吟の中の律詩「前兵児の謡」を

多摩岳精会の小杉先輩と一緒させて頂き、一所懸命踊りました。後ほど、宗家からお誉めの言葉を頂き只々感激いたしました。本当に岳精会に入会して良かったという想いで一杯でございます。大きな組織の中で家元、宗家の教えを、ともに共有できる吟友を得たことは無上の喜びでございます。これから色々な舞台にチャレンジして、舞いに吟に真剣に学びたいと思います。諸先生方、また先輩の方々宜しくご指導お願い致します。

全国吟道大会に参加して  
丸の内女子 森山 俊雄

小雨ふる去る六月廿二日、川崎市教育文化会館で催された全国吟道大会に参加しました。私が詩吟を始めてから、まもなく一年になるうとしていますが、今大会は各会・支部、各吟詠者の素晴らしい詠を聞くだけでなく、自分も合吟者の片隅に名を連ねた大会でもありました。今大会のプログラムの中で、私が一番夢中にさせられたものが、第六部の構成吟「頼山陽の風景」でした。それは今年度の指定吟題でもあった「母を奉じて芳野に遊ぶ」を吟じた事にもよりますが、彼の生い立ちをスライドとその情景に、応じて吟詠を聞くことが出来た事です。今後このような企画を続けて欲しいと思います。

全国吟道大会に初参加して感じた事  
ハザマ 犬飼 勇雄

一、実際に参加してみても、ビックリした事。そこに集まった一、五〇〇人以上の方達全員が五、一〇〇人程の（平均四〇人）グループを作り、舞台の上で次々と合吟した事でした。初参加の私もその中の一人でしたが、係の方達の適切な誘導があったとは言え、次々と舞台の袖から中央に進み、吟じて、また自分の席に戻る動きを、まさしく一条乱れぬ手順でこなす事が当然のようにならなくてしまふ事でした。二、次は、素晴らしかった事です。八〇歳以上の方達の合吟でした。声の大きさも張りもあり、その上参加者数が多い！（七四名）「本当に八〇歳以上？」と疑ってしまふ程の若さ溢れる吟と動きでした。素晴らしい先輩に脱帽です。三、最後は嬉しかった事について。宗家や本部役員の方達をはじめとして、普段お会いする事がままならない全国で活躍されている会長さん・支部長さんたち皆様の吟を聴く事が出来た事です。私としては健康のために始めた詩吟ではあります。益々好きになり一所懸命精進を積み、機会あることに行事に参加させて頂き、「真善美」をくまなく吸収していければ、と思ひました。岳精流の歴史と文化的質の高さを直接肌で感じ、詩吟にどっぷりと漬かりたいと感動した一日でした。大会をここまで纏めてこられた係の方達に感謝の気持ち一杯です。有難うございました。

大会の舞台に立って  
神田 宮川 武郎

「シマッタ」と思った時はもう遅かった。係員の「背の低い人は前に出て」の指図に従って並んでいた。最前列に立ってしまいました。千代田岳精会男子の合吟は鈴木会長以下八三名。入門して間のない初心者が最前列に立つなんて冷汗ものでしたが、いい体験をさせて頂きました。

レベルの高い吟を聴いて大変勉強になりました。また、同じ岳精会の方々の吟を聴き比べるのも、これ又大変よい勉強になりました。今回の大会参加が自分の吟のレベルアップに少しでも役立つようにせねばと思っております。

これだけの規模の大会を企画運営するのは並大抵のことではありません。裏方でも大勢の方々が黙々と働いておられました。心底より敬意を表わします。

### 初参加雑感

新宿 大堀 昭二

吟歴一年、吟の難しさが少し判つてくる。初めての壁である、何はともあれ気分転換が必要。そんな時期にこの大会を迎えた私は「井の中の蛙、大海を眺望する」の気楽な気分を決め込んで初参加した。

会場に入ると既にほぼ満席の状況、場内の熱気に先ずは驚く。何とか最後列に席を確保。座ってみると全体がよく見渡せる絶好のポジションである。いよいよ開演。全国の皆さんが、大声でのびのびとマイペースで吟詠を楽し

む姿にいつの間にか引き込まれている。特にワクワクしながら迎えたのが第六部「頼山陽の風景」である。昇伝審査吟に「母を奉じて芳野に遊ぶ」を選んだことから小説「頼山陽」を延典子作（今年度新田次郎賞受賞）を読むなど、今春以来、私は山陽漬けになつていたからである。見事な吟詠にのせて舞う母梅、叔父杏平、恩師茶山などの登場人物が、小説の中から飛び出してきてるんだと楽しく錯覚しながら吟趣を十分堪能した。舞台が終わって立ち上がった瞬間腰痛の再発である。熱中も過ぎるところなるよと改めて学ぶ。

もう一つ、隣席の老人の珠玉のひとつ。一般の人で、毎年楽しみに来ているという。何年か前を懐かしむように「岳精会家元の吟を聴くと、いつもどういふわけか涙が出て仕方がなかつたよ」と。吟は人なりと言ふことか。吟二年目を前に、何とも収穫の多い一日でした。

全国吟道大会に初参加して

東陽町 田村 菊代

川崎市民の女性の方が、会場内で私の隣に座りました。毎年この大会を楽しみにしているとのことでした。

今にも降りそうな空模様の中、初参加の方の為に川崎駅時計塔の下に集合でした。教場長さんや先輩、同僚の見慣れた顔に安堵しての始まりです。会場での人の多さに驚きました。なごやかな雰囲気、いつしか緊張感もとれていました。

北海道から沖縄と全国の方々の集ま

り、そこで繰り広げられる合吟・吟詠の力強さに圧倒されました。また、誘導など団扇を使った番号表示に裏方さんのアイディアや活躍で舞台が流れるのだと思いました。千代田岳精会男子の見事な勢揃いと合吟の響きは圧巻でした。女子合吟で先輩の方の中に加えていた、だき壇上から「秋思」を吟じました。素晴らしい経験をさせて頂きました。

「頼山陽の風景」も剣舞と吟に見応え、聴き応えがありました。すっかりのめり込んでしまいました。そして何と云っても先生方の独吟は、ずっしりとした重みと奥の深さを実感し、研ぎすまされた吟の世界に感銘を受け、大変勉強になりました。隣に座った川崎市民の方が欠かさず聴きに來るのも大会が終わつてみて、大きく領けました。

今後とも、皆様のご指導宜しくお願うございませう。充実した一日を有難うございました。

全国吟道大会に出席して

ハザマ 滝沢 はる



朝から小雨模様で、あまりはつきりしない一日になるのではと思いつきながら、初めの場所です。早めに駅に向かい川崎に着くと雨は止んでいました。

待合せの皆様、お揃いの和服姿で元  
 氣凛凛と目が輝いて見えました。  
 会場に入りまたびっくり、全国大会  
 の迫力と規模の大きさに圧倒され、自  
 分は何と一井の中の蛙大海を知らず  
 なのかと情けないやら恥ずかしいやら  
 で反省ばかりです。  
 家元のお話を聴かせて頂き、詩吟も  
 沢山聞かせて頂き、また剣舞も吟を引  
 立て、とても素敵でした。第六部の構  
 成吟「頼山陽の風景」には舞台に釘付  
 けになり、とても素晴らしい時間を過  
 す事ができ、人生は幾歳になっても勉  
 強だと思えます。  
 人のつながりが大きな輪となり、動  
 く事を感じながら、私もその輪に一步  
 でも近づけたら良いなあと思いつつ皆  
 さまから元氣と夢を頂き、一步お先に  
 家路につきましました。  
 有難うございました。

平成廿一年度昇伝審査指定吟題

- ◎初伝 西行
- 至善 大槻 磐溪
- 平泉懐古
- ◎中伝 徳川 景山
- 大楠公 陳 与義
- 襄邑道中 教本の中から二題選ぶ
- ◎短歌 奥伝
- 帰雁 杜 甫
- 古寺訪梅 渡辺 郷岳
- 俳句 教本の中から二首選ぶ
- ◎皆伝 李 白
- 友人を送る 松口 月城
- 稗搦きの歌

千峰流吟剣詩舞大会

剣詩舞の金子千峰さん(東陽町)主  
 宰の温習会に、松尾剣詩舞研修リ  
 ーダ以下のメンバーの他、多くの会員が  
 参加し盛大に開催されました。

千峰流温習会へ参加して  
 松尾 洋輔

剣詩舞演技指導者の金子千峰宗家  
 (東陽町教場)が主宰する千峰流吟  
 詩舞大会が六月一日(日)板橋グリ  
 ンホールで開催されました。  
 今回は、千代田岳精会が大会を後援  
 し、鈴木会長、磯田、岩崎、林各顧問  
 城戸研修部門リーダーをはじめ東陽町  
 教場を中心に数教場から多数の会員の  
 応援を頂きました。剣詩舞では七名が  
 十二吟題を披露し、吟詠では会員諸氏  
 が独吟、連吟、伴吟にと活躍、岳精流  
 の意気盛んなどころを示して会場を大  
 いに盛り上げました。また、八尾葉風  
 氏は写真担当として協力頂きました。  
 剣詩舞研修では、伴吟者のご協力を  
 頂きリハーサルを行なう等、今大会の  
 出場に備えて練習を重ねて参りました  
 が、全員舞台度胸よろしく見事にその  
 成果を発表することができ、安堵感と  
 共に喜びを分かち合いました。  
 また、大会では千峰流の先輩や他流  
 宗家方の吟、剣詩舞、新舞踊、民謡等  
 多彩な演技を見学することができ、舞  
 踊の奥深さを知る有意義な一日でした。  
 剣詩舞研修部門では、剣詩舞部員と  
 伴吟者を募集中です。毎月第一・三月  
 曜日、吟舞両道を目指し、健康増進も  
 兼ねて一緒に楽しみませんか。

全国吟剣詩舞道連盟  
 吟詠コンクール東京都大会・東日本  
 大会で大活躍

区予選から十三名が東京都大会へ出  
 場したことは前号でお知らせしました  
 が、五月十七日の一般三部で城戸稲風  
 ハザマ教場長が堂々の優勝、東日本大  
 会へと駒を進められました。また山手  
 遙山(丸女)さん及び五月十一日の一  
 般二部で菅原琴風丸の内女子教場長が  
 入賞されました。  
 お三方とも日頃の実力を十分に発揮  
 された成果でした。お目出とうござい  
 ます。

七月六日、赤羽会館で開催された東  
 日本大会へ出場の城戸稲風さんは、各  
 地より選ばれた名人、上手の中で大健  
 闘惜しくも全国大会出場こそあと一步  
 で成りませんでした。堂々の入賞と  
 千代田のレベルの高さを示して下さい  
 ました。

吟楽部門秋の吟行会

十月廿六日(日)養老溪谷の秋を楽  
 しみ、房総半島を横断して勝浦の有名  
 ホテル「三日月」で新鮮な海の幸と、  
 吟を楽しむ日帰りバス旅行が企画され、  
 参加者の予約募集のところ、九〇名を  
 越える申し込みがあり、バス二台の予  
 約となりました。  
 詳細については、近々吟楽部門から  
 連絡があり、参加人数の確認がなされ  
 る予定です。錦秋とよき吟友、美味し  
 い料理、まさに吟楽の一日を是非一  
 緒に楽しみましょう。

『私の心に残る一詩』その十六  
副会長 耳塚昇風

憶雲井竜雄 谷 干城

墨田花可醉 蓮湖月可吟  
想昔連騎豪遊日 桜花爛漫月沈沈  
錦城春暗辛未年 人生浮沈是天然  
若有孤心徹亡友 感淚為水到九泉

東陽町が開設されて間もない、全くの新人の頃、磯田先生に習った詩で、先生の名解説もあって深く心に残っており、桜花爛漫の春にはふと吟じたくなる詩です。

作者谷干城（一八三七—一九一一）土佐の生れ、明治時代の軍人、政治家、詩人。西南戦争の時には熊本鎮台司令官として熊本城を守りぬいた。学習院長、後に第一次伊藤内閣の農商務大臣。終始国権主義、国粹主義をおし通した気骨の人。七十五歳没。

雲井竜雄（一八四四—一八七〇）米沢藩士、戊辰戦争後その才を買われ新政府に仕えたが、薩長中心の明治政府を不満として辞して不平土族を組織し政府に対抗した。この決起行動により内乱罪で逮捕され明治二年十一月小塚原で廿七歳の若さで斬首された。

「死して死を畏れず、生きて生を偷まざる。」 辞世の句の冒頭より。谷干城は雲井竜雄と安井息軒の三計塾で共に学んだ仲である。その当時勉学とともに、興に応じ墨田川の堤や不忍池の辺に遊び、酒を酌み交わしながら人生を語り、国の将来を論じていた。今はその友は悲業の死を遂げている。この詩は、悲運に倒れた同学の友へ

の不快哀悼の情と悲憤慷慨の気に満ち満ちていて、吟ずる者の心に深く沁み入って行く。私の心に残る一詩です。「通釈」墨田の堤の桜は酔うほど美しい。不忍池の月は吟ずるのが素晴らし。い。それにしても想う、むかし馬を並べて花月のもとで豪遊したあの日のことを。桜花は咲き乱れ、月は静かに水面に映じていた。全てが華やき希望に満ちていたね。それが、君亡き後の江戸の辛末の春は、なんと我が心を暗くすることか。人生の浮沈—運命・生死—それは自然の営みだから仕方ない事なのだが……。もし、君を失ったやりにきれない寂しい想いが九泉の亡き友に通ずるならば、感極まった我が涙は水となつて九泉に届いてほしい。



千代田岳精会温習会  
南大塚ホールで十一月廿二日に開催

温習会とは、広辞苑によると習得した技芸を発表するための会、とありま。す。もとは①小学校などの学芸会の意。②京阪花柳界の秋季行事である芸妓の競演会、後には舞踊、音楽などのおさらい会を言う。

今年の温習会は、昨年に続き豊島区南大塚ホールで十一月廿二日（土）に開催されます。担当教場、丸の内第一東陽町・丸の内女子・鎌ヶ谷が趣向を凝らして企画を進めています。会員の増加が願調に進むなか、無伝初伝の独吟コンクールなど新しい会員にスポットを当てたプログラムが特色と言えます。

千吟会がスタートしました

飯田最高顧問から、毎月の教場ではなかなか取り組めない詩吟教本（人の巻）から選んで、月一回指導するとのお話があり、「千吟会」と名付けられ、六月から各教場持ち回り担当となつて、第四火曜日の十一時三〇分—十三時に開催されています。

今後の予定吟題は次の通りです。

九月三十日 奥の細道（平泉の一節）

十月廿八日 敦盛塚（唱歌つき）

十一月廿五日 酒を勧む

十二月十六日 徳川家康公遺訓

（人の一生は）

教室は、明治安田新宿ビルB1Fの夜間出入り口階段横の小会議室です。

「新会員紹介」  
◇丸の内第一教場（代々木吟詠クラブ）  
斎藤 喜久子さん（五月入会）

「せせらぎ」でお会いしてお勧めし  
早速入会して下さいました。以前に  
習われた経験があり、高く綺麗な声  
で堂々と吟じられます。大変熱心で  
欠席は一度もありません。明るく世  
話好きの方です。

江本 清子さん（五月入会）

人情味のある優しい方です。油絵、  
スケッチを趣味とされ、絵を画きな  
がら全国を旅行されています。詩吟  
は初めてですが、漢詩をよく学び、  
絵心が生かされ、その情景などが吟  
にも反映されているようで将来を期  
待しています。

井口 信子さん（五月入会）

京都生まれ、京都市の京美人で、  
物腰の柔らかい方です。ご主人の仕  
事の関係で、東京住まい。ひびき渡  
る七本の高い声に皆なうっとりさせ  
られます。何をしても堪能で、明る  
く爽やかな雰囲気の方です。

土田 昭子さん（五月入会）

ボランテア活動・体操と多くのこ  
とに真面目に明るく挑戦している方  
です。「せせらぎ」でのご縁でお勧  
めるところ、早速入会されました。  
高音ではっきりとした吟は将来性十分  
で楽しみます。

◇丸の内第二教場（日暮里分室）

柿山 和彦氏（六月入会）

本多凜泉さんの小学校時代の同期  
で、都の社会教育関係の仕事にされ  
ていた公務員でした。物静かな方で  
自宅にオーディオルームを持つクラ  
シックファン。異質の詩吟にはため

らいがあつたようですが、同期生と  
一緒に詩吟の仲間入りをされました。  
久保 豊子さん（六月入会）

本多凜泉さんの小学校の同期生で  
す。一寸控え目なところがあります  
が、さっぱりしていて、よく気が付  
いて、しかも気風のよい浅草っ子。  
教場に通り皆さんと吟ずるのが楽し  
みになったと言われています。

三須 いく代さん（六月入会）

本多凜泉さんの小学校の先輩でし  
た。俳句を嗜まれ、旅をされたり、  
ボランティア活動をされておたり、年  
齢を感じさせない静かなパワーをお  
持ちです。漢詩に興味を持たれてい  
たのでお勧めし入会されました。

金井 一夫氏（六月入会）

岡崎吉作氏の浅草千束小学校の同  
期生です。教場見学をすすめたとこ  
ろ、諸先生の熱心な指導と、和やか  
な雰囲気に入会を決められました。  
声を出したりする経験が無かったそ  
うですが、皆さんと楽しく詩吟を学  
びたいと言われています。

◇神田教場（志茂吟詠クラブ）

斎藤 カズエさん（四月入会）

小林公泉さんからお誘いをうけ、  
四月に入会しました。池田教場長の  
優しく熱心なご指導と、会員の皆様  
の穏やかな人柄に引張られ、毎回  
苦しみながらも楽しく挑戦していま  
す。でも、家族にはまだヒミツにし  
ています。

久保田 雄子さん（四月入会）

池田先生に犬の散歩中に出会い、  
誘われたのが詩吟との出会いです。  
早速見学に行き何とも言えない良い  
雰囲気、詩吟の事を何も判らず人

会しました。良い仲間と出会い、声  
を出した後の爽快感、長く続けたい  
と思います。よろしくお願ひいたし  
ます。

◇新宿教場  
井川 綾子さん（六月入会）

末期（後期ではない）高齢者にな  
るのを遅らせられるのでは、と加納  
隆さんの紹介で入会したところ、明  
るい笑いに溢れる練習に加え、賑や  
かな昼食会が楽しみで、イェ、食べ  
たり喋ったりだけでなく、真面目に  
練習いたしますので、諸先輩のご指  
導を宜しくお願ひ致します。

編集後記



今年も暑い暑い夏が過ぎていった。  
六十余年、軍国少年の愛国心が砕け  
散り、戦災の瓦礫の山を前に、まず飢  
えと戦い、壊滅状態の国、社会の再建  
に取組み、国も自分達も豊にと遮二無  
二働いてきた。敗戦國を世界第二の経  
済大国へと成長させた一端は我々が担  
ったとの自負と誇りは、秘そやかな勲  
章として持ち続けたい。  
しかし、そこに奢りと自省を欠く風  
土が蔓延して、大切な何かが大切に  
ない気がする。他人や自分を大切に  
ない事件が続発する世状を見ると「衣  
食足りて礼節も放棄し」、隙あらば周  
囲を打倒して利益を貪った者をヒ口  
としてあげつらう拜金主義の氾濫。  
しかし「今の若い者は」と非難する前  
にその世代を育てたのは他ならない自  
分達であったと、気付いて下さい。  
(八田)